

評価基準について

2004年4月4日

長瀬小学校

現在まで、名張市の通知表は、通知表検討委員会作成の市内共通の「のびゆくすがた」という形式に統一されています。昨年度の通知表検討委員会で、各校独自の評価基準を作成することになり、この春休み中に、その一部の作成に着手しました。

とは言っても、大規模校のようにはいかないので、異動を免れた3名の教諭が手分けして、算数科（1～6学年）のみ作成するのがやっとでした。

文部科学省の学習指導要領や、中央教育審議会答申（中教審は昨年10月7日の「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」の答申で「[はどめ規定]等の記述の見直し」を打ち出し。つまり、はどめを外す方向で検討中。実質的なはどめ規定の解除の方向性などの動き）など、まだまだ流動的で、今後どのように変化し、落ち着くのか不透明です。また、本年度は、全国的な学力テストも予定されているようです。その結果が集約される頃に、また大きな変動も予想されます。

名張市の通知表検討委員会の動向も、全く予想がつきません。そんな中で、本校独自の評価基準作成が、果たしてどれほど意味があるのか疑問でしたが、現状での児童の基礎・基本の学力の定着や、今後の指導に役立つものがきっとあるだろうと信じて、学年末・始め休業日の貴重な時間を費やして作成しました。作成に当たっては、現在、上野教育事務所管内の小学校が採択している算数科検定済み教科書及びその指導書を基にしました。

短時間で急いで作ったので、誤字・脱字、その他誤りが多々あるかもしれませんが、本年度の通知表検討委員会実施までには、再度推敲・検討を加える予定ですので、改訂版が完成するまで暫しのご猶予を。

因みに、昨年度J-KIDS大賞（第一回全日本小学校ホームページ大賞）受賞で、一躍全国の頂点に躍り出た、千葉県印西市立大森小学校の「算数だより」というコーナーには、以下のような大変示唆に富む有益な研究成果や最新の情報がUPされていたので、是非一度参照されたいと思い、ご紹介します。

参考資料：「千葉県印西市立大森小学校ホームページより」

「確かな計算力」の定着を

本校では、一昨年度の研究以来「計算力」を「算数科における『確かな学力』の最低基準」として共通理解し、定着を図っています。今年度も残り1ヶ月となりました。各学年で習得すべき計算を以下に示し

ます。（『小学校学習指導要領』より）

1年	1位数と1位数との加法及びその逆の減法	
2年	2位数までの加法及びその逆の減法	1位数と1位数との乗法
3年	3位数の加法及び3位数の減法 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗法 除数と商がともに1位数の除法	
4年	除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の除法 10分の1の位までの小数の加法及び減法	
5年	10分の1の位までの小数の乗法及び除法 同分母分数の加法及び減法	和、差の見積もり
6年	異分母分数の加法及び減法	分数の乗法及び除法 積、商の見積もり

子どもの実態によって「下学年の範囲だけでも手一杯」ということもあるかもしれません。一人ひとりの実態に合わせて、できる限り定着して、次の学年に引き継ぎましょう。

（千葉県印西市立大森小学校の「算数だより」より）

他に、「個別評価カード」という独自のもの（PDF文書化）も作成されています。（下記URL参照）

<http://www.inzai.ed.jp/omori-es/sannsu/hyouka/index.htm>